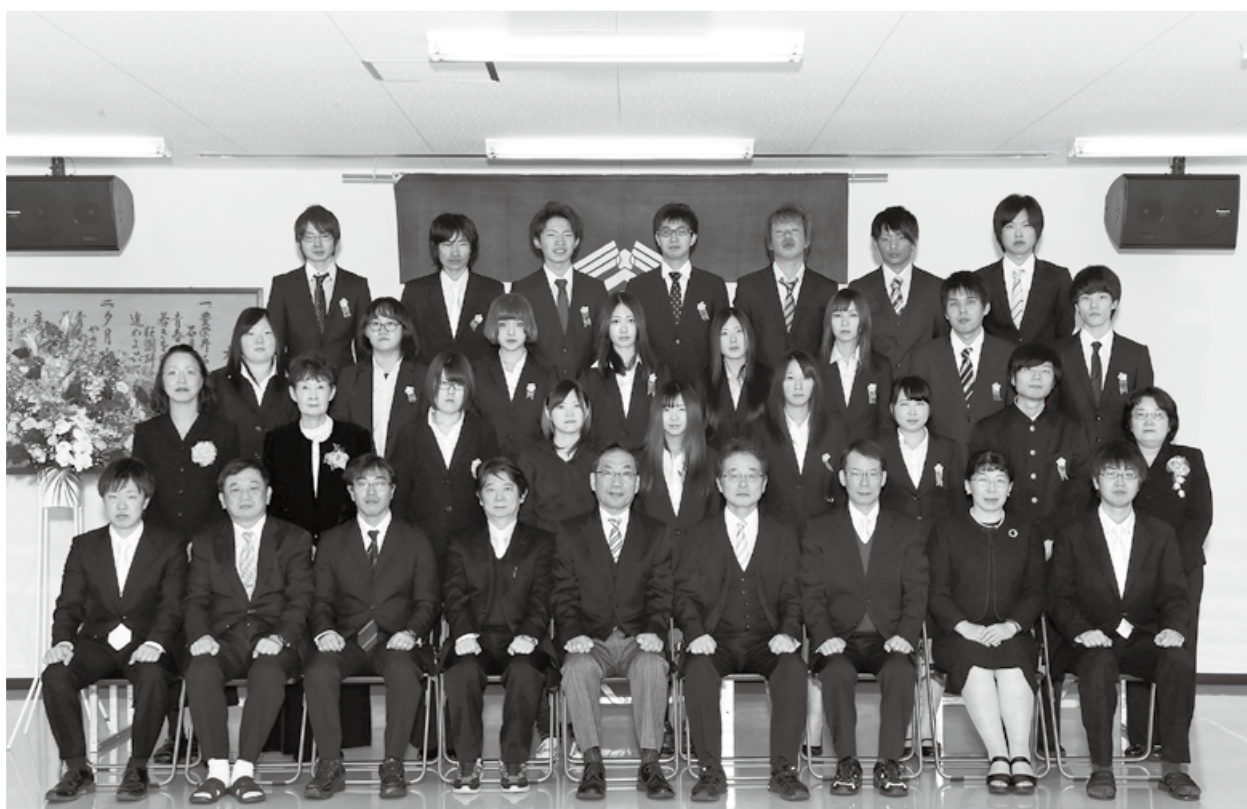


# 亀 山 通 信

発行者：浜田高校通信制課程  
TEL：0855-22-0187

住 所：浜田市黒川町 3749  
FAX：0855-22-2549

印刷所：有限会社 原 印刷



平成 27 年度（4 期）島根県立浜田高等学校通信制課程 卒業記念 平成 28 年 3 月 3 日

平成 28 年 3 月 3 日(木) 浜田高等学校の卒業式が厳粛かつ盛大に挙行されました。全日制普通科 192 名、全日制理数科 29 名、定時制 7 名、通信制 30 名、合計 258 名の卒業生が巣立って行きました。

通信制 30 名の皆さん、ご卒業おめでとうございます。ほとんどの皆さんが仕事と学業を両立させながらの高校生活で、大変なこともたくさんあったのではないのでしょうか。しかし、そんな苦勞をしながら高校生活を送られた皆さんはこれから先何があっても負けない強い精神力と忍耐力が培われていると思います。

新しい船出に大きなエールを送ります。



## 第 24 号の主な内容

|            |        |
|------------|--------|
| ◎卒業生集合写真   | 表紙     |
| ◎校長式辞      | 2・3 頁  |
| ◎答辞        | 4 頁    |
| ◎卒業生からの言葉  | 5 頁    |
| ◎卒業式の様子    | 6 頁    |
| ◎授賞式       | 7 頁    |
| ◎最後の L H R | 8 頁    |
| ◎生徒総会等     | 9・10 頁 |
| ◎保健部より     | 11 頁   |
| ◎教務・教頭より   | 12 頁   |

# 校長式辞

温暖なここ浜田の地では、桃の節句の頃には樹木が一斉に芽吹きを始め、海より吹く風にも確かな春の香りを感じます。

ご列席の保護者の皆様におかれましては、お子様が立派に成長し、本校を卒業されますことを心よりお喜び申し上げます。高校生活は、社会の有為な形成者として必要な知識・技能を修得する期間でした。保護者の皆様には、お子様の健やかな成長のために適切な助言と支援をいただいたこと、また浜田高校の教育活動にご理解とご協力をいただいたことを感謝しております。本当にありがとうございます。

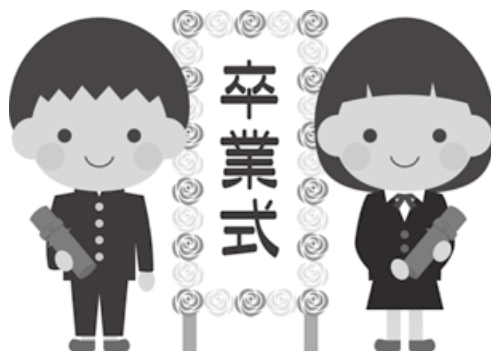
ただいま卒業証書を授与しました二五八名の卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。浜田高校で過ごした年月は、各課程或いは個人によって違えども、君たちにとってかけがえのない、また思い出深いものであったと思います。

開設四年目となる通信制課程を卒業する三十名の皆さんは、自学自習を前提とする通信制の学習の原則を理解して学業に励んできました。本校や大田・益田

の協力校でのスクーリング、定期的なレポート提出、そして前期・後期試験などの課題を、自らの努力と先生方の手厚い支援により乗り越え、高校卒業に必要な単位を修得しました。いろいろな不安や悩み、そして苦労があるなかで、通信制での学び直しを決意して浜高に入学し、決して楽ではない道を着実に歩みを進めて卒業の時を迎えた皆さん、本当によく頑張りました。改めてその努力に敬意を表します。

さて、浜高の前身である旧制島根県第二尋常中学校が開校して二年目にあたる明治二十七（一八九四）年、神奈川県箱根において後世に語り継がれる講演会が開催されました。講演者は「二つの」で知られる内村鑑三、講演内容は後に『後世への最大遺物』としてまとめられ、多くの人々の人格形成に影響を与え、また私も含めて多くの人々を感化した書物となりました。内村はこの講演で次のように聴衆に訴えています。「経済的成功や社会的地位・名声の獲得も勿論結構ですが」私が一層よいと思うのは、後世のために私は弱いものを助けてやった、後

世のために私はこれだけの艱難に打ち勝つてみた、後世のために私はこれだけの品性を修練してみた、後世のために私はこれだけの義侠心を実行してみた、後世のために私はこれだけの情実にも勝つてみた、という話を持って再びここに集まることです。この心掛けをもってわれわれが毎年毎日進みましたならば、われわれの生涯は決して五十年や六十年の生涯にはあらずして、実に水の辺りに植える樹のようなもので、だんだんと芽を萌き枝を生じてゆくものであると思います」と。不確実な時代、不透明な時代と呼ばれる現代において、人としての在り



方、生き方の理想を示した内村鑑三のこ  
とばに胸を打たれます。君たちはどんな  
人生を歩んでいこうと思っていますか。  
私は心から願います。君たち一人一人が  
理想の旗を高く掲げ、内村言うところの  
「勇ましく高尚なる生涯」を送るべく日々  
励むことを。そして、数年後また数十年  
の時を経て浜高に再び集う君たち一人一  
人が理想の旗を翻し続けていることを。

四月から、皆さんは新しい学びのなか  
でより高度な知識・技能を修得したり、  
また実社会のなかでこれまでに身に付  
けた知識・技能を活用することとなりま  
す。浜田の地でともに学んだ君たちの歩  
む道が、ふるさと石見の地域活性化に貢  
献するものであってほしいと私は期待し  
ています。そして、君たちへの期待が大  
きいからこそ、また今後君たちの歩む道  
が決して平坦なものではないと思うから  
こそ、君たちに次の言葉を贈ります。「こ  
の先、もしも人生の苦難に直面するとき  
があったなら、その時こそ浜高で学んだ  
君たちが為すべきことを示した愛する浜  
高の校歌を思い起こし、そして口ずさみ、  
元気を出して、勇気を奮って、みんな頑

張れ。」

旅立ちの時が来ました。旅に出る理由  
と旅立つ先は一人一人異なるけれど、浜高  
を巣立つ君たちのさらなる成長と発展を  
心から願っています。最後になりました  
が、「二五八名の卒業生一人一人のたい  
なる未来に幸あれ」と祈り、式辞といた  
します。

平成二十八年三月三日

島根県立浜田高等学校長

西 藤 昌 裕



# 答 辞

第67回島根県立浜田高等学校卒業証書授与式



私が浜田高校通信制に転入してから、あっという間に三年の月日が経ちました。転入してからの三年間をふり返ると、最初は不安な気持ちでいっぱいだったことを、はっきり思い出します。

勉強についていけるのか、友達ができるのか、三年で卒業できるのか など、様々な思いがよぎったのを、今でも覚えています。しかし、実際にこの学校に転入してからは、そのような不安は徐々に薄れていき、いつとはなく、仲間と呼べる人たちとも出会えました。

ここ通信制で学ぶ人たちは、つらい思いや、苦しい状況を経験してもなお、学びたい気持ちや、高校卒業の資格を得たいという気持ちも、誰にも負けないほど強く持っています。通信制

は毎日学校に来るのではなく、生徒がそれぞれのペースで勉強に取り組み、卒業に向けて頑張っていく学校です。一人一人生活スタイルが違います。

私の場合は、アルバイトをしながら学校に通う事を選択しました。アルバイトと勉強の両立と、口では簡単に言うものの、実際は思ったよりも、難しいことでした。慣れない業務を覚えたり、立ちっぱなしで接客をしたり、あいさつや、言葉遣いなど、私にとってはどれも大変なことばかりで、働く事の厳しさを、身をもって感じました。私はアルバイトに、宿泊施設の仕事をを選びました。朝出勤して、まずは大広間の掃除から始まり、大浴場・脱衣所・各階の客室の掃除をします。掃除し終えた後は、ゴミが落ちていないか、電気はきちんとつくか、人数ごとのアメニティは揃っているか、など隅々まで最終の確認をします。また、調理場での食器洗い、フロントでの電話予約の対応、仲居の仕事など、様々な業務に日々をこなしてきました。本当に、大変でした。

それでも、お客様の笑顔や、人の役に立てる喜びがありました。次はもっと喜んでもらいたいという思いを持つようになり、接客営業の仕事の「魅力」や「楽しさ」がわかってきました。そこから責任感も湧いてきて、やりがいを感じるようになりました。

こうして、高校に通っているだけでは、経験できないようなことも沢山経験でき、一足早く大人になった気持ちがありました。

一方、通信制の勉強も、決して楽なものでは

ありませんでした。わずかな仕事の空き時間や、休憩時間を使って勉強して、わからないところは、週二回のスクーリングの日に授業を受けに行き、先生方に教えてもらいました。時間割も、仕事と両立できるように、自分で計画を立てて、取り組みました。そんな私に、先生方は、いつもわかりやすく、丁寧に教えてくださった事が、心に残っています。

私は、この二月から正社員として県内のホテルに勤め始めています。今まで、失敗をする事があっても、乗り越えてきた経験を生かし、「自信を持って」、「謙虚な姿勢で」、歩んでいきたいと思っています。

卒業を迎えた今、私たちはそれぞれ進学・就職と進む道は違いますが、通信制で学んだことに誇りを持ち、これからの人生を進んでいきます。今日まで私たちを支えてくださったすべての方々に、心からの感謝の思いを捧げ、答辞といたします。

平成二十八年 三月三日

通信制卒業生代表

三 好 明 花





## 卒業生からの 言葉

～将来に向かって～

### 「将来の夢」

匿名希望

僕の将来の夢は、世界的に有名なミュージシャンになることです。自分の音楽センスが世界に認められ、色々な国でライブをしたいです。

### 「これから」

H・A

これから卒業を迎え、その後は子育てが待っているので子育てを頑張っていこうと思っています。初めての出産・子育てになるので分からないこともいっぱいです。戸惑っていることもあります。生まれてくる子どものために頑張ろうと思います。夢もあきらめたくないで、少しずつでも勉強して夢をかなえたいと思っています。夢は看護師になることで、子育てしながらできるか不安ですが、できないことはないと思うので、卒業したら本気で看護の勉強をしたいと思っています。もし、看護師になれたら、子どもが風邪を引いたときや怪我をしたときにきちんとした対応や処置ができるので、子どもにとってもいいことだと思います。看護師になるという夢はいつかかなえたいと思っています。

### 「将来のために」

A・T

卒業後は今すぐにではないけれど、将来的には県外に出て一人暮らしをしてみたいと思っています。そのためにお金を貯めたり、たくさん準備しなくてはいけなくなるし、一人で生活していくので覚えなければいけないこともあると思います。だから、今は少しでもこれからの生活の為に今やっている仕事を頑張ったり、自立できるように頑張っていきたいです。



### 「ビクナ漢（おとこ）」

匿名希望

この3年間の学校と仕事の両立でやってこれた経験をいかしてどんなことにも全力でぶつかっていき、進んでいきたいと思っています。何にでも全力で向き合っていくうちに、たぶんビクナ人間になれているような気がします。いや、なってやる!!

### 「これから」

Y（匿名希望）

これからは専門学生として勉強していくのですが、新しい環境での生活ということもあり、正直不安があります。しかし、同時に楽しみでもあります。

何度失敗しても後悔はしない。歳をとっても笑って話せる。そんな人になりたいです。

# 卒業式の様子



# 授賞式

～平成28年2月28日～



## 平成 27 年度 卒業生 受賞者一覧

| 賞 名 称           |        | 受 賞 者                                                      |
|-----------------|--------|------------------------------------------------------------|
| 全国高等学校定通教育振興会   | 修学優秀者  | 阿川紗矢香                                                      |
|                 | 部活動功労者 | 福原 嘉起                                                      |
| 全国高等学校通信制教育研究会  | 優秀者賞   | 柳 愛実、三好 明花                                                 |
| 島根県高等学校定通教育振興会  | 優秀者賞   | 竹内 由貴、鷹田亜津奈                                                |
| 亀山賞             | 資格取得の部 | 石戸 拓磨                                                      |
|                 | 検定合格の部 | 岩本 里奈、小松原 舞                                                |
|                 | 継続就労の部 | 川本 力也、三好 明花、佐々木美樹<br>半場光太郎、山本 夏生、鷹田亜津奈<br>田原 将、羽板奈々瀬、川本 力也 |
| 太田・吉田奨学会卒業記念品贈呈 |        | 代表 田原 将                                                    |
| 生徒会卒業記念品贈呈      |        | 代表 半場光太郎                                                   |



## 生徒総会・在校生授賞式

2月16日（火）に今年度最後の生徒総会を行いました。今年1年の振り返り、そして、新旧生徒会の引き継ぎを行いました。来年度の各委員長の紹介があり、通信制課程代表は飛田駿也君に決まり、「たくさんの企画を提案し盛り上げたい」と意気込んでくれました。

また、生徒総会後には亀山賞の授賞式を行い、検定賞・就労賞など今年1年様々な活動に取り組んだ成果を表彰されたので、来年度も頑張ってください。



新課程代表 飛田 駿也



|       |         |        |
|-------|---------|--------|
| 新役員紹介 | 通信制課程代表 | 飛田 駿也  |
|       | 議長      | 竹間 千里  |
|       | 体育委員長   | 森 賢司   |
|       | 文化委員長   | 砂田 みちる |
|       | 書記      | 飛田 風紗  |
|       | 会計      | 小川 莉緒菜 |
|       | 会計監査    | 駒川 愛斗  |

### 亀山賞受賞者一覧

小松 優真（3A）、竹間 千里（1A）  
 長谷田広美（2A）、小川莉緒菜（2B）  
 福井あかり（2A）、横田 桃奈（2B）  
 駒川 愛斗（2B）、松下 由香（1A）

## 冬季集団研修（スケート実習）

参加希望生徒でスケート教室ということで、サン・ピレッジ浜田へ行ってきました。初めての人が多く、最初はスケートリンクに入ることも難しいようでしたが、指導を受けると上達が早くほとんどの生徒が滑れるようになりました。2時間しっかり滑りこみ1回の練習で大変上手くなりました。

スケート実習を通し、普段話した事のない生徒との交流も図ることができたと思います。来年度もぜひ実施したいと考えていますので、たくさんの参加をお待ちしております。



## テーブルマナー講習会



2月28日（日）、授賞式終了後「浜田ステーションホテル」でテーブルマナーの講習をしていただきました。おいしい料理と楽しい話を聞きながらの講習会でした。はじめは緊張していた参加者も支配人の方のおもしろい話に次第に緊張もほぐれ、楽しい会になりました。



## 作品紹介



島根県高校美術展に出品し、入選した1 A、松下さんの作品です。

### 「夜の瞳」について

3作目の油絵で、大きなものに挑戦しようと思って描きました。それまで静物を描いていたので、今度は想像の世界を表現したいと思いアラビア世界をイメージして描きました。立体感を出すのにとっても苦労しました。先生のアドバイスを受けながら何度も描き直し、1年半かけて完成させた愛着のある作品です。

松下 由香「夜の瞳」

## 保健部より

## 保健だより ラポール3月号

寒さと温かさが目まぐるしくかわり、体調を崩した人もいないでしょうか。だいじょうぶですか？

通知表が届き、4月からの新しい生活に思いをはせていることと思います。昨年1年間から学ぶことは多かったと思います。それはぜひ次の年度に生かしましょう。まずは心身ともに「元気」であることが大切と考えます。生活習慣を整えて、元気に新年度を迎えましょう!!



## ♪ 平成28年度 健康診断の日程が決定しました ♪

健康診断と同一日に歯科・眼科・耳鼻科の3つの検診も実施します。事前に予定を空けて学校で健診を受けるようにしましょう。

**日 時：平成28年5月31日(火)**

**健診内容：眼科、歯科、耳鼻科、  
身長、体重、視力、聴力、尿、診察、  
胸部X線・心電図（該当者のみ）、  
血液（希望者のみ・有料（昨年112円））**

※学校で受けるといいこと！(^ ^)!

- ・健診費用は無料です。
- ・特別活動にカウントをします。
- ・眼科・耳鼻科・歯科検診も同時に受けることができます。

※詳しい時間等については、次回でご案内します。



学校でできない場合には、他の機関で受けることになるので、できるだけ学校で受診しましょう。



### 今できる！ 新学期の準備

あたたかくなってきました。  
そろそろ新年度の準備をしましょう！

#### ①時間を意識！

生活リズムを整えて体調を管理。

#### ②かたづけ！

いらない物は捨てて、整理整頓を。

#### ③計画をたてる！

計画ができたなら半分できたも同じ。

# 39

thank you

## ありがとうの日？

3月9日を「ありがとうの日（サンキュー）」  
とも言うそうです。「物をとってくれた。」「一緒に  
考えてくれた。」そんなささいなことにも「あ  
りがとう」を言う場面はたくさんあります。「家  
族には、言わなくてもわかる。」と、言わない人  
もいたかもしれませんが、きちんと言葉で伝え  
あいましょう。

## 教 務 部 よ り

### 在校生のみなさんへ

4 月 10 日（日）に受講手続を行います。

『持ってくるもの』（受講手続きの案内に記載してあります。）

- ・ 学校徴収金
- ・ 教科書等購入代金
- ・ 印鑑
- ・ かばん（教科書が入るもの）
- ・ 教科書無償申請書（該当生徒のみ）
- ・ 生徒証

## 平成 27 年度を終えるにあたって ～長野教頭先生より～

“十七、八が二度候かよ、…” 小説「二十四の瞳」で知られる壺井栄氏の別の作品にこの一文があります。その昔、私が高校の時に手にした本に載っていたものです。ストーリーはどうにも思い出せませんがこの言葉だけは年月を経ても不思議と覚えています。その意味は「17、8 の年齢のときは二度はやってこない。人生で一番いい時期だ。」と。今思えば、ごく当たり前のもっともなことに思えます。ただ、当時の私にはそう言われても実感はありませんでした。日々の、煩悩にあふれた生活続けることに一杯で、その時期を、その後の人生と比較してよかった悪かったと言えるだけの経験もまだなかったのです。

今日、年月を経て、この言葉をごく当たり前のようにリアルに実感します。過ぎ去って何かを失った後に初めてそうと感ずることになったのです。

思うに十代後半からの時期は、可能性に満ち満ちた時期です。何をするにも、何に取り組むにも無限の可能性を秘めています。「そんなことないですよ」と思っている生徒諸君、“今、輝いている”と感ずる余裕はなくても、今年度、幾つか単位を取得したではありませんか、仕事と学業を両立しながら卒業したではありませんか。確実に一步一步前進しています。これからも今日できることを精一杯の力で取り組んでほしいと思います。

“Now or Never, Always Be a Challenger!”

何十年かぶりに、関係の本を探していて、次の文が続くことを発見しました。

「十七、八が二度候かよ。枯れ木に花が咲き候かよ。」“枯木”って今の私じゃないよね。年はとってもまだまだ気持ちは青年のつもりだけど。でも君たちを見ていると、みんなまぶしく羨ましく思えます。今年度一年ご苦労様でした。来年度もがんばりましょう。

## 編 集 後 記

この第 24 号が今年度最終号になります。通信制の生徒の皆さんにとっては非常に大切な情報源となる亀山通信です。できるだけわかりやすく、読みやすい紙面になるよう心がけて作ってきたつもりですが、どうだったでしょうか？ 今後もより良い紙面作りにご協力ください。

1 年間ありがとうございました。